看護研究報告：

脱臼予防の抱き枕を検討して

松 尾 和 子*，岡 本 美 佐 代*，鈴 木 和 世*，市 来 由 香 理*

人工骨頭置換術や人工股関節全置換術では術後合併症として脱臼の危険性があり，術後2週間は股枕などの予防策が必要である。また，股枕除去後も脱臼の可能性は残っており，患者は仰臥位のまま常に下肢を開いた状態となるため苦痛を訴えられる患者もいる。

今回我々は，このような患者の苦痛を和らげることを目的に，確実な脱臼予防と安楽に寝返りを打てるような枕の作製を試みた。市販の抱き枕を使用して検討した以前の経験を基に，看護スタッフからのアンケート調査を参考に独自の抱き枕を作製した。人工骨頭置換術施行患者1例および人工股関節全置換術施行患者3例に使用したところ，患者からも良好な評価を得ることができた。また，使用例でのX線写真では，整形外科医師から有効性についての評価を受けることができた。

脱臼予防 股枕 抱き枕

． は じ め に

大腿骨頸部骨折や変形性股関節症の治療として，人工骨頭置換術や人工股関節全置換術が行なわれている。しかし，これらの手術では術後の合併症として脱臼の危険性があり，特に術後2週間はこの危険性が高いとされている¹⁾。当病棟では，この危険性を回避するため手術後2週間は股枕を使用して予防に努めているが，股枕除去後においても脱臼の可能性は残っており下肢を内旋するような体位を避けることが必要である。このため，患者は患側を上にした寝返りを打つこともできずに仰臥位のまま常に下肢を開いた状態となるため苦痛を訴えられる患者もいる²⁾。

以前我々は，術後2週間を経過した患者に安楽を目的に市販の抱き枕を使用して検討して一定の成果を得ることができた。しかし，安楽を重要視したため脱臼予防という視点からみると

弱いものであった。この反省を踏まえて今回は，確実な脱臼予防と安楽に寝返りを打てるような枕の作製を求めて研究に取り組み成果が得られたので報告する。

． 対象および方法

1．実施期間

平成16年6月1日から平成16年12月31日

2．対象者

1) アンケート調査および枕の作製

当院の整形外科病棟看護師18名

2) 抱き枕使用患者

対象期間中の人工骨頭置換術施行患者5例中1例・対象期間中の人工股関節全置換術施行患者6例中3例の合計4症例を対象とした。使用患者の詳細を表1に示す。なお，表中の脱臼経験は，今回の入院以前の脱臼有無について示した。

3．研究方法

1) 以前の検討結果を基に抱き枕を作製し，看護師に使用感などについてアンケート調査を実施した。

* 〒444 2351 愛知県豊田市岩神町仲田20
足助病院整形外科病棟
(受付：2006年8月7日)

表 1 . 抱き枕使用者詳細

	A 氏	B 氏	C 氏	D 氏
年齢	77歳	54歳	79歳	75歳
性別	女性	男性	女性	男性
身長 (cm)	149	167.2	147.2	150.5
体重 (kg)	44	48	32.5	60
診断名	変形性股関節症 慢性関節リュウマチ	変形性股関節症 慢性関節リュウマチ	右大腿骨頸部骨折	変形性股関節症
脱臼経験	あり	なし	なし	なし
入院期間	平成16年 7月30日～ 10月28日	平成16年 5月12日～ 12月 3日	平成16年 9月27日～ 11月 3日	平成16年11月 1日～ 12月18日

図 1 . 今回作製した脱臼予防抱き枕

図 2 . 現在使用している脱臼予防股枕

2) 人工骨頭置換術，人工股関節全置換術の手術をした患者 4 人に作製した抱き枕を適応するとともに 1 症例については X 線写真による検証も実施した。

3) 作製した抱き枕 (図 1)

図 1 に示すように，少し中央部が細くなった円筒状の形状をしており，長さ 1 m，太さは左から 32.5cm・28cm・32.5cm。中身の素材はパウダービーズ，布は裏地ナイロン素材，カバーは綿ジャージ素材で以前の経験を参考にして作製してある。

現在術後の 2 週間使用している股枕を図 2 に示す。

結 果

1. 看護師アンケート

看護師による抱き枕使用後のアンケート結果は表 2 のようであった。

の脱臼予防については，「思う」では「下肢がしっかり支えられて安定性がある，内転・内旋しにくい」という意見が多く，「思わない」では「確実に脱臼しないとは言えない」という意見がほとんどであった。

の安定性については，「思う」と回答した看護師は「しっかりと支えられるし，フィットしてよい，硬さも丁度良く安定感がある」という意見であった。「思わない」と回答した看護師の意見は「柔らかく形がくずれる」というものであった。

表2．看護師アンケート結果

	思う	思わない	無回答
確実に脱臼予防ができますと思いますか	10	8	0
安定性はあると思いますか	16	2	0
安楽だと思いますか	12	4	2

安楽については、「思う」では「素材は柔らかく触り心地がよい、体にフィットするのでよい」というもので、「思わない」と回答した者の意見は「中身がパンパンでやや固い」という意見であった。

大きさについては、身長140cm～149cmの看護師1名、「長さは長すぎるが、太さは丁度良い」・身長150cm～159cmの看護師11名「長さは丁度良い」という意見が多く、「太さも丁度よい」という意見が多かったが「やや太い」という意見もあった。身長160cm～170cmの看護師5名、「長さは丁度良い」という意見と「短い」という意見があり、太さは「丁度良い」という意見であった。

2．患者への適応

A氏

リウマチによる変形のため、布団すら重く寝返りがうたくてもうてない状態であった。作製した抱き枕を使用した結果、「重さが軽く肌触りもよい、中身の安定性もある」との感想が得られた。

B氏

「ちょっと長めのような気がするが寝返りがうちやすく、とても軽くて良い」との評価が得られた。とても気に入っており常に使用していた。

C氏

腰痛があり、脱臼予防のために患肢を下にした側臥位をとると創痛を伴った。抱き枕を使用することにより、患肢を上にした側臥位がとれるようになり「創痛もなく、腰も浮いて楽になった」との評価であった。

D氏

「素材も良く安定感がある。横になるのもし

図3．現在使用している股枕を使用中のX線写真

図4．今回作製した抱き枕を使用中のX線写真

りやすい。中身の素材はパイプの様なものならなお良かったのではないかと」など多くの意見を頂いたが総じて良い評価であった。

X線検査による検証

作製した抱き枕の実際の効果について、整形外科医師と相談しX線写真にて検証した。股枕使用時と抱き枕使用時のレントゲン写真を整形外科医師立会いのもと撮影し比較検討した結果、「求心位が獲得され、外転の保持ができれば脱臼はしないため、今回の症例では股枕および抱き枕を使用することにより適切な位置関係が維持できている。なお、拘縮の有無、他関節の障害の影響についても考慮して観察してゆく必要がある。」との意見を頂くことができ抱き枕使用の有効性について確認できた。

・ 考 察

今回は、以前の市販品を使用していたの検討結果を参考にして独自の抱き枕を作製したが、目的も前回の「安楽を最重視する」から「確実な脱臼予防と安楽な寝返り」に変更した。

看護師の試用についてのアンケート調査では、安定性や安楽に対しては高い評価を得ることができたが脱臼予防については4割強のスタッフが疑問を持っているようであった。前回の検討が安楽に対して追及したものであったこともあり、抱き枕の安定性や安楽に対する看護師の認識はかなり高まっていることが窺われる。しかし、試作した枕が1種類のみであったことも影響して、大きさに対する評価では身長の違いにより評価はかなり異なったものとなってしまうが、多種類作製することは困難であったため今回の検討では患者に対しても1種類で適応することとした。

実際の患者への使用では、4名の患者全てから良好な評価を受けることができた。また、作製した抱き枕を使用することにより安楽感のみでなく、目的とした寝返りや安定に対しても効果的に使用できており当初の目的を果たすことができている。このことは、患者からの要望も機能に対するものでなく大きさや素材に対するものであることから証明されている。また、1症例であったがX線写真にて検証することができた症例では、抱き枕を使用することにより適正位置に安定することができており、

脱臼予防の効果も得られていることを確認することができた。

・ ま と め

当病棟では、人工骨頭置換術や人工股関節全置換術に対する術後合併症である脱臼予防と患者の安楽を目指して股枕・抱き枕を積極的に使用するよう心掛けている。今回は、前回の市販の抱き枕使用による検討の結果を参考にして、脱臼予防と安楽の視点から作製したため効果的な抱き枕を患者に提供することができた。看護師の試用および患者への適応による評価は、看護師の脱臼予防に対する不安はあったものかなり満足のいく評価を得ることができた。また、1症例のみであったがX線写真による検証の結果からも脱臼予防に対する効果が期待できるものであった。今回の検討では、1種類みの作製であったため看護師や患者からも大きさに対する意見は多く聞かれた。今後は、大きさや素材などを考慮した抱き枕を検討・作製して、より多くの患者への安楽と脱臼予防に対する安心感の提供を推進していきたい。

参 考 文 献

- 1) 園田昌子, 矢持恵美, 岡光幸代. 人工関節置換術患者のリスク管理 人工股関節置換術患者の脱臼予防. 看護技術 2003; 49(14): 41-42.
- 2) 佐藤裕子. 人工股関節置換手術患者の手術経験による術前後の不安およびストレスの変化. 平成15年度東海北陸地区看護研究学会集録 2003: 7-8.

Usefulness of Holding Cushion in Your Arms in Bed for Luxation Prevention

Kazuko MATSUO^{*}, Misayo OKAMOTO^{*},
Kazuyo SUZUKI^{*} and Yukari ICHIKI^{*}

Patients who were just operated on for artificial carpal bone replacement or total artificial hip joint replacement are at high risk of luxation. They are recommended to use pillow-like cushions for propping up their hips or legs for a couple of weeks postoperatively. Even after the removal of the props, there remains a chance of dislocation. Some patients, lying upon their back and spreading their legs apart day and night, complain of pain. With a view to allaying the patients' pain, we attempted to develop a cushion such that patients could toss and turn in bed easily. A questionnaire survey was carried out on all the nurses who had learnt a lot from experience in using pillows commercially available. Based on the findings of the survey, we trial manufactured cushions and used them in one capitate bone replacement patient and three hip joint replacement patients. The cushions were well received by the patients and rated high by a orthopedic surgeon who checked X-rays of the patients.

^{*} Nurses at Orthopedics Ward, Asuke General Hospital, Aichi, Japan